星の樹木

平沢秋鹿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
星の樹木

【Ｎコード】
Ｎ３２４８Ｌ

【作者名】
平沢秋鹿

【あらすじ】
神秘的な森の中で一人の老人と一人の少女は、この世界の終焉が近い事を悟る。残された道はただ一つ・・・それは下界から飛王の騎士を見つけることただ一つだった。

プロローグ（前書き）

初の投稿作品です；；見苦しい文章ではございますが、なにとぞよろしくお願いします。ファンタジー物のプロローグです。

プロローグ

―プロローグ―

［ゴオオオオーッ！！！！！！！！！！！！］幻想的な森の静けさの中に、ひときわ大きな音を立てながら、水が滝から流れ落ちている。

「いよいよじゃのう・・・。」白くて長いあごひげを蓄えた老人は、大きな滝の前でぼそりとつぶやいた。

「！！！・・お爺様！・・・それじゃあ遂に・・・。」老人のすぐ後ろに立っていた少女は、声を一瞬荒らげながらも、すぐに悟ったように声を静めて言った。

「ふむ・・・。エリオラは遂に完全復活をしてしまった。このルアンが千年樹呪で被いつくされるのも時間の問題じゃ。もうわしらだけでは、どうする事もできん・・・！」

「お爺様・・・。」

「仕方ない・・・。もはや残された道はただ一つ・・・下界の者の力を借りるしかないのじゃ！」老人はあごひげを手で撫でながら、力強く言った。

「はい！お爺様！」また少女の方も力強く老人に応える。

「リアよ・・・。門を通れるのはお前だけじゃ。頼んだぞ！このルアンの未来はお前にかかっとる！！」

「はい！！わかりました、お爺様。必ずや飛王の騎士となるものを連れて戻ってまいります。」リアと呼ばれた少女は、力強く返事をしその場を後にした。たが、その眼には希望と不安の光が入り交ざっていた。

森の中に消えていくリアの背中を見ながら、

「リア・・・！頼んだぞ・・・！！」と静かにつぶやいた。

プロローグ（後書き）

読んで頂いた方には、おそらくがっかりされたでしょうが、日々努めて文章力を高めていきますので、これからもよろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3248l/

星の樹木

2011年1月13日03時37分発行